

2010年度 入試問題分析シート

名古屋大学

前期日程

科目

国語(古文)

試験時間	105分	満点(配点)	文 400点, 教育 600点, 経済 500点, 医(医) 150点	出題数	現代文 1題, 古文 1題, 漢文 1題			
総括					難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
					分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

<総論>

一昨年の『唐物語』に続き、説話からの出題であったが、説明問題の記述量がこの数年に比べてかなり増大した。

<合格への学習対策>

厳密な現代語訳を心掛けるとともに、説明を書くことへの真剣な習練を積むことがポイントである。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
二	説話	『十訓抄』(第七)	入試頻出の作品だが、名大での出題はめずらしい。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
二	問一	記述	現代語訳問題。Aは主体と客体の補い、Bは「どのような心際」か、Cは「落ち散りぬれば」が何がどうなることかを明示するのがポイント。	やや難
	問二	記述	説明問題。第四段落の内容を的確にまとめるのがポイント。	標準
	問三	記述	説明問題。花園の北の方のエピソードと貫之の娘のエピソードの共通点と、その上でそれぞれの歌にこめられた詠み手の心情の共通点を説明することがポイント。	難

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。